

「第5次雲南市教育基本計画（素案）」に関するパブリック・コメント（意見募集）の結果及び意見・提案に関する市・教育委員会の考え方について

1. 公開した資料 第5次雲南市教育基本計画（素案）
2. 意見募集期間 令和7年1月13日（月）～令和7年2月13日（木）
3. 資料等公開場所 雲南市役所（教育委員会教育総務課）、各総合センター、雲南市ホームページ
4. 意見提出人数 4人
5. 意見提出件数 15件
6. お寄せいただいたご意見・ご提案と市・教育委員会の考え方

ページ、項目	ご意見・ご提案の内容	市・教育委員会の考え方
本文全体	本文に数値やグラフや表がないため、挿入して課題や目標を捉えやすくしてほしい。	パブリック・コメントで掲載しました本文には掲載しておりませんでした。が、資料編として関係のあるデータを掲載する予定としております。
p 1、24、48、49 基本的な考え方、主な取組	文章中に、少子化や核家族化といったことが記載されていますが、近年の取り巻く環境として、ひとり親家庭・世帯の方が増えているのではないかと考えています。このことにも着目する必要があるのではないのでしょうか。	ひとり親等を包含する「家族構成」の表記に改めます。 p 1については、社会の現状を示す内容ですので、修正しません。 p 49については、「核家族化、少子化の中、」を削除します。
p 2 1. 計画改定の背景と趣旨 (3) 第4次計画における成果と課題	第4次計画は令和6年度までのため、まだ計画期間中になると思いますが、成果と課題はどのように把握・抽出されたのでしょうか。	令和5年度までの実績をもとに令和6年度に振り返りを行い、教育委員会事務局及び策定委員で把握・抽出しました。
p 5 5. 具体目標 (1) ③「健康やかな体でたくましく生きる人づくり」	こどもの体力低下ならびに高齢者の運動習慣の課題については同意いたします。よりよい生涯のために「運動のある生活がよい」という啓発、ともに体を動かすコミュニティづくりに努めていただいています。が、もっと気軽に日常に安心して対象者が運動が行える場所（公園や体育館）へのアクセスは課題です。教育委員会だけでなく、行財部門、公	p 59 9. 生涯にわたって親しむスポーツ活動の推進の中で、「③スポーツに『誰もがアクセスできる』」を記載しています。この中には、運動が行える場所に加え、つながりと交通手段も含めて考えています。 p 60 (1) 生涯スポーツ活動の充実【基本的な考え方】の中で、「誰でも、いつでも、どこでも、楽しく、気軽に参加できるスポーツ活動は、個人の健

	公共交通部門との連携で目的にあった行財の利用推進をお願いします。 （こどもたちだけでも出かけられる場所、親子やサークルで気軽に使える場所が増える、または可視化される必要がある）	康づくりとともに市民の交流を深めることにもつながり、人と人とのコミュニケーションづくりの場にもなります。余暇時間を有効的に活用するためにも、今後、生涯スポーツ活動に対する市民の期待は大きいことから、生涯スポーツ活動の一層の充実に努めます。」と計画上、位置付けています。関係機関とも連携し、取り組む予定としています。
p 5 5. 具体目標 (1) ⑤「雲南市におけるキャリア教育の推進」	「社会を生き抜く力」の育成や、「自立した社会性のある大人への成長をめざす教育」の計画は、本当に素晴らしい目標だと共感しています。この目標を達成するためには、テストで良い点を取ろうと答えだけを暗記する学習ではなく、その答えを求めるプロセスを子どもたち自身で解明したり、多数で話し合って結論を生み出したりするディベートなどを、授業に多く取り入れられてはいかがでしょうか。 （すでに実践されている際はご容赦ください。）	雲南市では教育活動全体を通じて、主体的・対話的で深い学びの授業に取り組んでいます。今後、当計画に基づき取り組んでまいります。
p 6 5. 具体目標 (2) ②教育の原点としての家庭の役割 → 「帰りたい家庭」	家庭教育の重要性があげられています。しかし、家庭や保護者が学ぶ機会が乏しいのが現状ではないでしょうか。多様な価値観や情報がある中で、家庭教育のあり方の提示の仕方次第では、それを押し付けと感じ、協力や理解を得られないことも考えられます。 市のコミュニティスクールで保護者の委員定数が増えたのは一つの好例だったと思いますが、呼びかけやPTA活動への積極的な参画を促すことがこの課題解決に対して十分であるのかどうか疑問です。どのような子育てを理想とするかは各家庭で異なる現状で、それを話し合う場や学び合う場は、PTA活動だけでは十分ではないと感じます。 両親が共働きであったり、保護者が単身で合ったりと家庭の余裕がなく、また少子化のため保護者数も減	p 15 で3. 学校・家庭・地域の連携・協働による教育環境づくりについて述べています。また、p 47～49 で、4. 地域の子育て支援の充実 (1) 子育て意欲の向上 (2) 家庭の教育力の向上 (3) 地域社会全体で子育てを支援する環境づくりの推進において、具体例を述べています。

	少しており、PTA活動も縮小しているなか、保護者の家庭での役割を従来のように求められないこともあります。保護者が子どもを支えることができるのが今までの理想でしたが、今は地域が家庭を支えることにより、子どもが帰りたい家庭となると考え、計画に具体性を足していただきたいと考えます。	
p 13 (3) 幼児児童生徒の安全確保の推進 ②登下校時の安全の確保	通学路の安全のところで「不審者」に加えて「動物出没の危険」も加えてほしいです。私の暮らしている地域では、クマ等害獣への不安を理由に通学時のバス利用が認められている中学生がいます。こうした対策のおかげで今のところ事故は起きていません。クマの目撃は季節を問わず増えており、サルやイノシシに至っては明るい時間に堂々と道路を横断しているような状況で、不安は増す一方です。バス利用範囲の拡大や申請条件の緩和、また害獣出没の観点からの通学路の安全点検といった対策が必要になると思われ、このあたりをしっかりと計画のなかに盛り込んでもらえるとありがたいです。	既に、クマ等の対策としてバスの利用を許可するなど対応しています。
p 17 1. 「『夢』発見プログラム」の推進	夢や将来像が明確になっていないままプログラムを実践したら、せっかくの有益なプログラムが無駄になってしまうため、事前に夢を明確にするような特別授業があると良いと思います。 その上で、夢発見プログラムや夢発見ウィークを実践すれば、よりパワフルになるのではないのでしょうか。	「『夢』発見プログラム」では、発達段階に応じた様々な体験や活動を通して、将来の自立のための能力や態度を育むとともに、自分らしい生き方や夢を見つけることを目指しています。 学校現場では、児童生徒が自身の未来像を描けるようになることや自立した社会性のある大人を目指すことへの関心を高められるように、小中学校で講演会形式の授業を実施しています。 児童生徒が自身のキャリアについて考える上で、将来の夢を描くことは重要だと考えています。今後も学校と協力しながら、こども達が、夢や将来像を持つことができるよう、引き続きキャリア教育の充実を図ってまいります。
p 17 1. 「『夢』発見プログラム」	地域との連携という言葉が出てきていますが、具体的な支援として地域活動に通学バスを使えるように	市内では、地域の特色ある教育活動や地域行事が行われ、こども達の貴重な学びの場となっていますことを認識し

ラム」の推進 p 43 1. 社会教育の推進 p 44 2. 地域自主組織との連携	するとか、タクシー代を助成するというようなことができないでしょうか。 保護者による送迎がない子どもは事業に参加できないということがすでに起こっています。 公共交通機関の利用が現実的でない地域で、保護者が送迎できない場合、その子どもは学びの機会を失うことになります。	ております。 しかし、イベント等へのスクールバスの利用やタクシー代の助成については、困難であると考えております。 教育委員会では、小中学生が 500 円で市民バスに 1 年間乗り放題できるパスポートを販売しておりますので、移動手段の一助としてご活用ください。
p 29 (1) 確かな学力の育成 ②外国語活動・英語教育の充実	英語や外国語よりも、正しい日本語や日本語の歴史にフォーカスすべきと考えます。 過去から受け継がれた言葉が崩れると、文化や伝統も壊れていく気がしてなりません。 英語や外国語の教育は、将来外国語を使う職業を目指す生徒だけが習えるよう選択制などにしてはどうでしょうか。	普段の授業を通して、正しい日本語理解と日本語を通じた豊かな感性を育てています。 また、ふるさと教育とも連動して、日本の歴史や文化への理解を高めています。 外国語活動・英語教育については、外国語の背景にある文化に対する理解を深めること、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うことを目的としていますので、すべてのこども達の学びとしています。
p 29 (1) 確かな学力の育成 ③教育デジタルトランスフォーメーション（教育 DX）の推進	「自立した社会性のある大人への成長をめざす教育」を念頭に置かれているため、時代に即した媒体等を通じて自主的に情報収集する能力の育成においては、素晴らしい計画だと感じます。 一方で、「書く」ことの大切さがないがしろにされているようにも感じます。 学習の効率や記憶の定着としては、キーボードを叩くよりも手で書くことの方が優れているとの研究結果もあります。 タブレットと手書きのバランスを重視されると、より一層成果が出る人材育成になるのではないのでしょうか。	DXは、個別最適な学びが選択でき、様々な児童生徒が学びやすい状況を保証すること等を目的として進めています。 しかし、従来通りの書く活動も重要だと考えております。ご意見にありますように、両者をバランス良く学びの中に取り入れて取り組んでいきます。
p 34 ①小中学校における人権・同和教育の充実 ア. 校内における推進	当事者本人のみならず誰もが という一文は不要ではないでしょうか？ 後述されている SOGI（誰もが当事者）と矛盾するように思います。	ご指摘のとおり改めます。

体制の確立		
p 48 4. 地域の子育て支援の充実	「近年、核家族化、少子化…」と家庭を取り巻く環境の変化について言及がありますが、保護者が単身（シングル）である家庭数が多くなっていることに言及し、「家庭」のイメージが従来のもので固定化することを防いでほしい。（前回の社会教育委員会で発言がありました）同様に多世帯の家庭でもヤングケアラー（介護者となる子ども）がいることも言及されるといいのではと考えます。	ひとり親等を包含する「家族構成」の表記に改めます。 貧困、ヤングケアラー等について追記します。
p 48 4. 地域の子育て支援の充実 （１）子育て意欲の向上	【基本的な考え方】にある「正しいものを見極める」という表現についてですが、誰にとって正しいものなのだろうかという疑問がわきました。 本人たちにとって「正しいもの」という意味で「適切なもの」という表記ではどうでしょうか。 しさを行政側が振りかざすように思われて、現代社会にそぐわない表現に写りましたので、こういう受け取り方もあるとお伝えいたしたいと思います。私が気にしすぎなだけかもしれませんが…	溢れる情報の中には不正確なものもあることから、「正しい」という表記にしていますが、ご指摘のとおり改めます。
p 54 6. 人権・同和教育の推進 （２）人権・同和教育、平和教育の推進	永井隆博士は、三刀屋町以外での知名度はまだ低いと感じています。永井隆平和賞式典に誰でも立ち寄れる内容を組み込むなど、すこし気軽な切り口から平和教育につなげることを考えてはどうでしょうか。	永井隆平和賞発表式典については、コロナ禍の時期を除き、一般の方にも会場でご覧頂けるようにしております。頂いたご意見も踏まえ、永井隆博士の精神を広く発信し、また多くの皆様にご覧頂けるよう、式典及び付随のイベント内容について検討してまいります。